

2008

垂水号



◎寄稿者
垂水高等学校生徒会
会長 迫田直美
副会長 石躍隆博
副会長 脇元あすか

今月のテーマ

垂水高校生徒会寄稿

高校生活の楽しみの一つ・修学旅行

皆さんは、高校時代に修学旅行に行かれたか？一昔前は、修学旅行という概念がなかった時代もありました。現在では、ほとんどの高校で修学旅行が行われています。

今月は高校2年生になった時に体験する修学旅行をテーマに、垂高生の寄稿形式でお伝えいたします。

平成19年度垂水高校修学旅行概要

■目的

- ①修学旅行の体験を通して、政治・経済・歴史について理解を深め、広い視野に立って物事を考察する力を養う。
- ②規律ある団体生活を通して、垂水高校としての自覚を持ち集団生活のルールやその中での個のあり方を考える機会とする。
- ③生徒間あるいは生徒と教師間の相互の人的なふれあいの機会を通して、豊かな高校生活の思い出をつくる。

■日程 12月11日(火)～12月14日(金) 3泊4日

■行き先 関東(東京・横浜・千葉)

■参加者 生徒 2年生(男子31名・女子42名・合計73名)
引率教師 6名(校長・各担任等)



一日目

なぜだか、出発するその日になっても、修学旅行という実感が湧きませんでした。今思えば、その理由は、修学旅行先である「東京や横浜」のイメージが湧かなかったからだだと思います。

鹿児島空港から飛行機に乗ること約1時間30分、羽田空港に着いて、その空港のスケールの大きさに初めて実感が湧いてきました。胸の高鳴りを抑えつつ、最初の目的地である横浜へ移動。横浜は、日本が代表する国際貿易港を持ち、異国ムードあふれる港町です。

横浜では、ガイドマップを片手に、各グループごとに行動しました。最も印象的だったのは、「赤レンガ倉庫」と「横浜中華街」です。「赤レンガ」は、1907年に日本で最初の近代的な埠頭として明治政府が建設した「新港ふ頭」の模範倉庫として生まれ、貿易の中心として利用されていきました。その後、関東大震災での倒壊や終戦

を経て、本来の役割を終え、2002年4月に、現在の「横浜赤レンガ倉庫」として、

テーマパーク、各種イベントが行われる観光名所となりました。赤レンガは、歴史を感じさせる外観と子供から大人まで楽しめる環境が備わっていました。「横浜中華街」では、おいしいような物がいっぱい、その中から「世界一おいしい肉まん」を発見しました。「世界一」だけあって、その味は「記憶に残る」ものとなりました。

二日目

この日は、東京がメインです。車中から東京タワーや東京駅、迎賓館、六本木ヒルズなどの有名な場所を見学し、臨海副都心・お台場散策と浅草、国立西洋美術館で、東京の今の姿を目に焼き付けてきました。その中でも一番楽しかったのは、やっぱり「お台場」です。お台場では、テレビの世界が目の前に広がり、不思議な感覚に襲われました。また有名な「レイン

三日目

「三日月」を背に記念撮影も行いました。また浅草では、シンボルである巨大な赤提灯が下がる「雷門」や創業100年以上の老舗が軒を連ねる通りが、日本の文化を色濃く写し、外国からの旅行者も多く見受けられました。

最終日

四日目となる最終日は、この国の中心とも言える国会議事堂を見学しました。議事堂は、正面右側に参議院、左側に衆議院という作りで、当日は、テレビでも度々出てくる議員の皆さんにもお会いすることができました。国会議事堂を後にした私たちは、皇居を車中から眺めつつ、帰路につき、再び鹿児島に戻ってきました。

三日目は「東京デイズニーストリート」の一日散策です。リゾートには、電車で移動しましたが、これが大変！鹿児島では想像できないほどの満員電車で身動き一つできず、ホームでは立ち止まることもできませんでした。ようやく到着した東京デイズニーストリートは、平日という日もあり、休日ほどの混雑はなく、キャラクターのパレードやアトラクションなどをひたすら見て、乗って、楽しみました。また、気付いたこともありません。それは、「雰囲気づくり」という点です。私たちが楽しめるという

ことは、東京デイズニーストリートのスタッフの方々の

今回の修学旅行先は、日本の文化や政治、経済が詰まった場所、そこにあるエネルギーを感じることができた反面、鹿児島島の良さを実感することもできました。鹿児島島の空気のきれいなところや雰囲気が、私たちはやっぱり大好きです。これからの将来、私たちが大人になる上で、今回の修学旅行は、貴重な財産となりました。

今回の修学旅行は、貴重な財産となりました。